

広島大学 グローバルインターンシッププログラム
NEWSLETTER

海外インターンシッププログラム(G.ecboプログラム)
 —10年後の自分を探そう 世界と出会うインターンシップ—

第14号 Vol.7 No.1

2015年4月

目次:

G.ecboプログラム 全学化5周年記念 報告会を終えて	1-3
G.ecboプログラムの 歩み	4
2013年度&2014年度 派遣学生の一言 ～漢字一言で表すと? 他…	5-6
高等教育機関 派遣先の充実	7
G.ecbo事務局 OB/OGスタッフからの メッセージ	8

2015年度 G.ecbo 海外インターンシップの募集は4月から開始します！派遣先等の詳細はHPをご覧ください。

G.ecbo will call for 2015 participation in April! Go to our website for the list of intern locations and further details.



G.ecboプログラム全学化5周年記念報告会を終えて

G.ecbo教育プログラム自立後5周年

グローバルインターンシップ(G.ecbo)プログラム運営委員長 肥後 靖

G.ecbo教育プログラムの大学院GP事業が終了し、広島大学全学教育プログラムとして自立の道を歩みだして5年を迎えるにあたり、5周年記念行事として「時を経てなお心に生き続けるものとは」というテーマで報告会・シンポジウムを開催しました。パネルディスカッションでは、ファシリテーターとして国際開発学をご専門にされている大阪大谷大学の岡島克樹准教授をお招きし、受入機関である株式会社アルメックVPIの阿部朋子氏、G.ecbo修了生である吉野大介氏(現在、復建調査設計株式会社勤務)、西俣美奈子氏(現在、株式会社ミスミ勤務)、高岡勇輝氏(現在、高雄長庚記念病院客員研究員;スカイプにて参加)、上ヶ谷友佑氏(教育学研究科博士課程)と小職をパネリストとして、シンポジウムのテーマであるG.ecboの経験を経て、何が得られ、何が得られなかったかについて討論を行いました。岡島先生は、海外体験学習を通じた学生の学びと帰国後の展開にご興味があり、今回のシンポジウムのテーマに沿った貴重な情報とご助言を頂きました。2時間のディスカッションは大変中身の濃いものとなり、G.ecboでの体験が、修了生の頑健な能力形成に貢献していることと、数年以上経っても修了生の中に生き続けていることが実感できる討論会でした。今後若干の修正は必要かも知れませんが、方針として大きな間違いを犯していないことも確認できました。



G.ecbo運営委員長
肥後靖 教授

これまでG.ecbo教育プログラムの制度整備に邁進してきましたが、事務局スタッフの陣容も変革のときを向かえ、本プログラムも曲がり角に立っていると思われます。今回のシンポジウムで得られた知見(特に反省点)を踏まえ、次のステージを目指して新たな挑戦を開始する所存ですので、今後益々の皆様のご協力を願ってやみません。



G.ecbo海外インターンシッププログラムとは？

グローバルインターンシップを核としたサンドウィッチ教育を通して、既存の学問領域に縛られない多様な分野の課題に適應できる研究者の輩出、国際協力・国際援助の第一線をリードする実務者の養成と、世界中から集まる留学生や研修生の高度専門職業人としての育成を目指します。

G.ecboプログラム全学化5周年記念報告会実施報告

平成27年(2015年)2月23日午後2時より広島大学学生プラザ4階多目的室において、報告会が開催されました。これは、G.ecboプログラムが平成19-21年度に文部科学省の支援事業を通じてグローバルインターンシップ推進拠点として形成されたのち、全学の大学院特別プログラムとして運営を開始してから5年目となることを記念し企画されたものです。

G.ecboプログラムでは、これまでも「リスク管理／予防と実践的対応」(平成19年度)や「臨床の知／海外インターンシップ体験からの昇華」(平成20年度)をテーマに、主に海外インターンシップの事前、或いは実施直後の効果的な取り組みについて焦点を当て報告会を行ってきました。

ファシリテーター
大阪大谷大学
岡島克樹准教授



他方、今年度は前身である国際協力研究科のi-ECBOプログラム開始から数えて10年目になり、修了生の中には職場の中堅として活躍し始めている人たちも出てきています。そこで、今回はテーマを「時を経てなお心に生き続けるものとは ～海外インターンシップ後の展開と成長～」と設定し、プログラムを修了し社会に出たOB・OGを中心に、現在の自分からプログラム参加直後とその後を振り返ってもらい、プログラムの長期的インパクトを検討しようとする大胆な試みを行いました。

開催当日、報告会は、2部構成で行われました。まず第1部では、プログラム運営委員長の肥後靖教授より、G.ecboプログラムの概要とこれまでの実績が報告されました。続いて、中村聡事務局研究員から、海外体験学習により強化が期待されるコンピテンシーの内容と実際の学生の変容とのギャップについて指摘がなされ、後半の議論を通じてプログラムを修了した人たちの振り返りを通時的かつ重層的に検討することにより、これらのギャップを埋める知見が得られることへの期待が述べられました。

第2部では、大学教育における海外体験学習研究会の運営委員でもある大阪大谷大学の岡島克樹准教授にファシリテーターをお願いし、プログラム修了OB・OG、受入機関担当者、指導教員、今年度参加学生によるパネルディスカッションを行いました。まず、岡島准教授より今回の趣旨説明がなされ、海外体験学習により学生の認識の変容を検討するための観点として、メジローの『変容的学習理論』をベースとして、「知識」、「社会・他者」、そして「自己」が提言されました。

次に、プログラム修了OB・OGと今年度派遣された現役学生からこれまでを振り返っての報告がありました。吉野大介氏(復建調査設計株式会社、2006年参加)は、自身のその後のキャリア形成との関係から、高岡勇輝氏(高雄長庚記念病院、2008年参加)は、派遣国と日本との間の研究環境・文化の違いの観点から、そして西俣美奈子氏(株式会社ミスミ、2010年参加)からは、在学中に始めた国際協力活動の中での位置づけや今後の展望を中心に報告がなされました。今年度参加した上ヶ谷友佑氏(教育学研究科博士課程後期)からは、異文化に入ったからこそわかる、論文からそぎ落とされている文脈や現地の人々への踏み込んだ理解の困難さについて感想が述べられました。

2006年i-ECBO生
吉野大介さん
(復建調査設計株)

Skype参加!
2008年G.ecbo生
高岡勇輝さん
(高雄長庚記念病院)

2010年G.ecbo生
西俣美奈子さん
(株ミスミ)



現役・2014年G.ecbo生
上ヶ谷友佑さん
(教育学研究科博士課程後期)

受入機関代表
株式会社アルメックVPI
阿部朋子さん

G.ecboプログラム
運営委員長
肥後靖教授



阿部朋子氏(株式会社アルメックVPI)は、受入機関の立場から、現場にできるだけ多く触れ実際に感じることの重要性が述べられました。また、受入機関としての期待は、マンパワーではなく学生からの新たな視点や気づきであること、そして受入機関だけでなく派遣国の関連機関への貢献も視野に入れることの必要性も言及されました。肥後教授は、報告者の発言から、当初目的とした多様な文化・環境の中でも適応し得る頑強な能力の育成という意味では一定の成果が得られていると実感した旨感想が述べられました。

次項へ!

以上の発表を受け全体討議が行われましたが、最初に提示された3つの観点について、「知識」の側面では「学問と現実」や「学びの重要性」の点が、「社会・他者」の側面では「適応力」や「コミュニケーション能力」の点が、そして「自己」の側面については、「行動力」や「自己理解」の点に関する変化が自覚的に認識されている様子が今回の報告から確認されました。

大学院修了以来久しぶりにお会いする方々ばかりでしたが、学生時代に感じた熱意に加え、社会経験に裏打ちされた説得力のある発言に逞しさを感じました。今回得られた知見を基に他の修了者へも対象を広げ、本プログラムの長期的インパクトの検討を今後も続けて行ければと思います。

最後に、年度末のお忙しい中お越しいただき、示唆に富んだご意見を披露して下さった登壇者の方々、貴重な時間を割いて足を運んで下さった参加者の方々、そして裏方に徹して会合中のお手伝いをしてくれた現役のプログラム修了生の皆さんに、改めてお礼申し上げます。

(文責：中村)

G.ecboプログラム全学化5周年記念報告会の風景



山下さん(2013年G.ecbo生), 早稲さん&作本さん(2014年G.ecbo生)
お手伝いありがとうございました!



懇親会の後で記念撮影。皆さまお疲れ様でした。

《後日談》

この報告会で、派遣第1期生としてアルメック(現株アルメックVPI)に派遣された吉野大介さんと、当時の受け入れ担当であった阿部朋子さんが偶然にも感動の再会を果たしました。春頃にアルメック派遣の関東組で集まり同窓会を計画中とのこと・・・こうしたつながりが、修了生や受入機関の方々の間で業種や分野を超えて広がってくれたらと思います。事務局一同、実現することを心より祈っています。

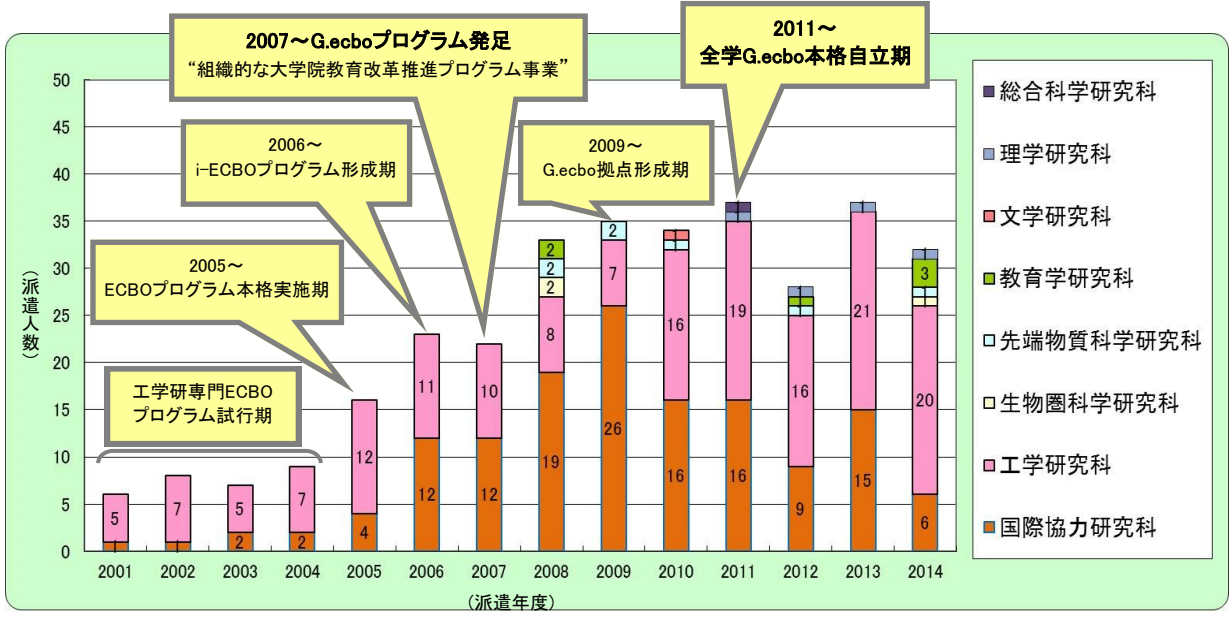


G.ecboプログラムの歩み

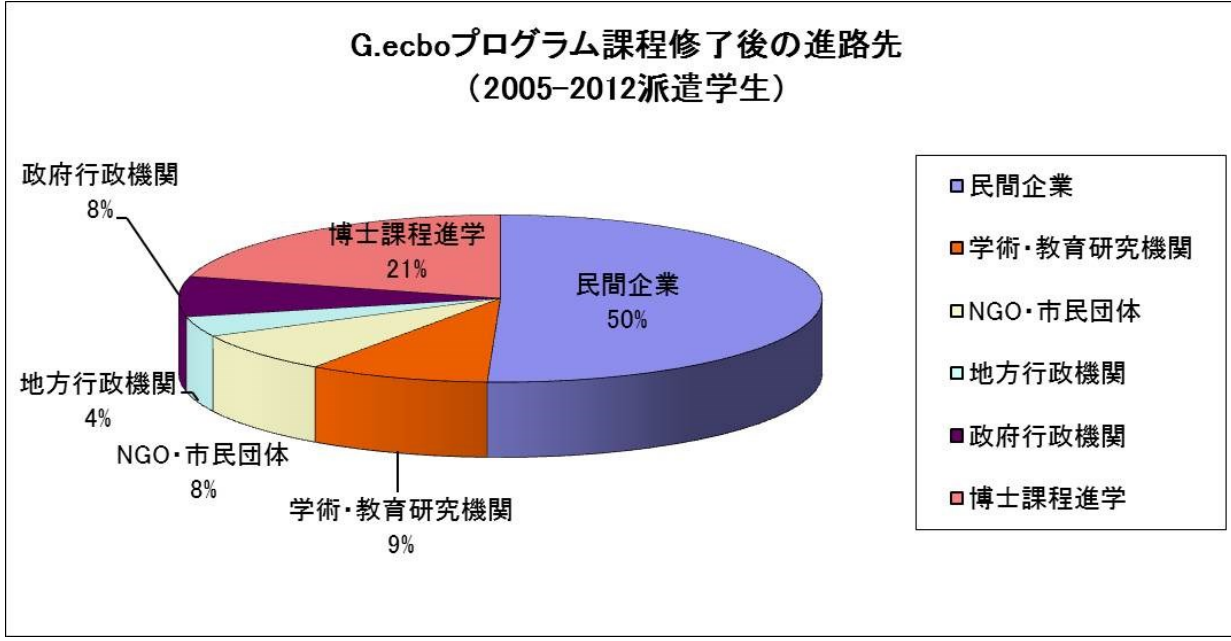
☑ プログラム成果：学生派遣実績

グローバルインターンシップ(G.ecbo)プログラムは、平成19年(2007年)から3年間、「組織的な大学院教育改革推進プログラム事業」の1つとして文部科学省の支援を受け、本学国際協力研究科を主管として運営がなされました。

本助成の終了後、全学プログラムとして大学本部に移管され、拠点が形成されてから間もなく5年が経過しようとしています。G.ecboプログラムは、その前身であるECBO(工学研専門ECBO)やi-ECBO(国際研専門ECBO)プログラムの時代を含めると約10年の歴史を持ち、参加した大学院生も300名近くになっています。



☑ プログラム成果：進路・就職状況



2013年度・2014年度派遣学生の一言 / Impression after the internship

Q1. 本プログラムで得た体験を振り返り、漢字1字で表現すると？



教育学研究科 山田真子さん
(韓国/韓国教員大学校派遣2014)

本プログラムにおいて、かけがえのない人との出会いがあり、貴重な経験ができました。そのすべてが、今後の自分を支えてくれるであろう、重要な柱のような存在となったからです。

柱



先端物質科学研究科 新居大記さん
(オーストラリア/グリフィス大学派遣2014)

様々な経験を自身にかき集めたような印象が残っているから。

集



生物圏科学研究科 池田正太さん
(フィリピン/シリマン大学派遣2014)

フィリピンはコネクションなどの「繋がり」を重視する社会であり、現地の学生の友人など、多くの人に助けられインターンシップを遂行できたから。

繋



国際協力研究科 早樋崇宏さん
(バングラデシュ/グラミン銀行派遣2014)

初めての海外だったので、経験した全てが新鮮だったからです。

新



国際協力研究科 三原遼大さん
(ネパール/Alternative Energy Promotion Center派遣2013)

多くの人々に出会い、そして支えられたインターンシップだった。出会った人たちとは、帰国後も共同研究を続ける事が出来ており、人との縁に恵まれたと感じている。

縁



国際協力研究科
Mohd Azuan Bin Zakariaさん
(マレーシア/マレーシア工科大学派遣2014)

I am very grateful to the organizer (i-ECBO) for their sponsorship through this internship. There are a lot of new experience that I gained through the internship period in exploring the world of research. Furthermore, with this internship, I am able to collect my research data for my Phd studies.

Grateful



国際協力研究科 安藤克寛さん
(バングラデシュ/グラミン銀行派遣2013)

派遣先でのディスカッション等だけでなく、農村部やスラムなどに足を運んで実態をとらえようと心掛けたため。

動



国際協力研究科
Keophatsada Mayoulyさん
(アメリカ合衆国/フロリダ州立大学派遣2013)

It's an eye opening experience. I had an opportunity to meet and to work with people from different culture and identity.

Great



国際協力研究科 玉田博規さん
(ベトナム/株式会社アルメックVPI派遣2013)

海外にある程度の期間の滞在や海外の人との共同での作業などいろいろなことが初めての経験だったから。

初



国際協力研究科 佐々木克祥さん
(ミャンマー/復建調査設計派遣2013)

何事も挑戦することにより成長できると学んだから。

挑



国際協力研究科 山下結依さん (アメリカ合衆国/フロリダ州立大学派遣2013)

自らの意見を積極的に発信していくこと。現地ではYES/NOをはっきり言うだけでなくその理由まできちんと説明することが求められた。

発

Q2. 本プログラムで得た体験を今後どのように生かしたいですか？



国際協力研究科 作本安浩さん (インドネシア/国際協力機構インドネシア事務所2014)

まず、計画性や適応力など、プログラムを通して痛感した自身の弱点をしっかりと理解し、その克服を図りたいと考えます。さらに、自ら体験して身につけた知識については、今後途上国の現状を十分踏まえた研究をするための、参考知識としたいと思います。



工学研究科 神澤拓さん (フィリピン/株式会社アルメックVPI派遣2013)

現地で学んだ異なる文化をもつ人たちとうまく協働する力は、社会で仕事をする際にも生かしていきたいです。



国際協力研究科 Bijan Maskeyさん (フィリピン/ICLEI派遣2013)

This was my first internship experience but I gained very valuable professional lessons as well as life lessons from this program. I was able to build professional network and also good friends, which will be definitely helpful in my future career.

Q3. 後輩たちへ一言アドバイスするとしたら？



国際協力研究科 酒寄晃さん
(バングラデシュ/株式会社パデコ派遣2013)
時には大胆に、時には慎重に。ぜひ、日本を出ましよう。



国際協力研究科 五十井将司さん
(インドネシア/West Java Environmental Protection Agency派遣2014)
自分の目で見て感じてみよう。



教育学研究科 上田裕太さん
(韓国/韓国教員大学校派遣2014)
G.ecboを通しての研修は、直接的に自身の研究に関わる人にはもちろん、そうでない人にとってもこれからの研究生活のバックボーンになるとと思います。



理学研究科 出口健太さん (ロシア/ロシア科学アカデミーウラル支所派遣2014)
皆最初は英語がしゃべれませんし、相手の方もそれを良く理解して下さい。何事も恐れず勇気を持って挑戦してください。



国際協力研究科 Muhammad Nur Fajri Alfataさん (インドネシア/ブラウイジャヤ大学派遣2014)
Take a good preparation, especially health. Consult to the doctor or bring necessary medication, for those who has allergic problem or problems with the stomach. The second, Indonesia is not as safe as Japan. Even there are a lot of good people compared to bad people, but however, the students still need to take care of him/herself carefully, especially when he/she has a trip.



国際協力研究科 田坂尚子さん
(ケニア/ケニヤッタ大学派遣2013)
自分の価値観でのみ判断しようとせず、いろんな立場にたってみてください。でもプログラム中、まずは安全で怪我なくすごせることを第一に。



国際協力研究科 井出翔太郎さん
(インド/マドラス・クリスチャンカレッジ派遣2013)
やる・やらないで迷ったら、やる方を選択しましょう。



国際協力研究科 Eam Phymさん (アメリカ合衆国/フロリダ州立大学派遣2014)
For the future interns in general, I believe that the philosophical ground the next interns should adopt to ensure their internship success is that they should be an active and reflective participant who are willing to engage and learn. Also, they should have a clear and concise goal, scope and plan for their whole internship period, so that they know what to do and when or where to do it with whom. Specifically for interns to FSU, I would suggest that they apply for FSU's visitor ID card and seek a chance to stay with American family for a few days, so that they can in some ways taste the real essence of life in America.

英語プレゼンテーション指導担当 - Narayan先生からのメッセージ from ネパール -



Assistant Prof. Narayan Khanal (2013年10月～2014年9月)
Coordinator for PPT Presentation sessions

I got an opportunity to serve as an Assistant Professor (Oct 2013 to Sep 2014) under G.ecbo program at IDEC, Hiroshima University. My specific responsibility was mentoring graduate students to enhance their skills in designing, planning and presenting internship activities. I found that students carrying out in-depth literature review and routinely participating in training sessions were better performers than their counterparts.

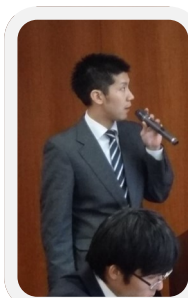
G.ecboプログラムでは、派遣学生の英語コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上を目的として、PPT研修を派遣前に計3回行っています。また必須科目として能力開発特論の履修を義務付けています。事前事後研修を行うことでインターンシップ内容の充実を図っています。

Narayan Khanal先生は、英語プレゼンテーション・履歴書作成等の指導を担当されました。1年間本当にありがとうございました。

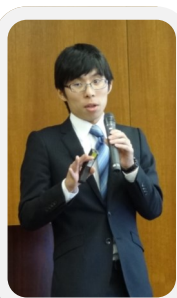
G.ecboプログラム派遣先・高等教育機関の充実。

今年度は、韓国教員大学校(教育分野)、シリマン大学(海洋環境保全・海洋保護区・海洋生物研究分野)の2件が新しく派遣先に加わりました。今後も継続した交流を図っていきます。

韓国教員大学校へは教育学研究科の学生3名を派遣しました。インターンシップ終了後、韓国教員大学校関係者の方々をお迎えし、成果報告会を行いました。(写真は成果報告会の様子)



上田裕太さん



上ヶ谷友佑さん



山田真子さん



2014年度派遣実績～12名を海外へ派遣しました！

派遣先

○高等教育機関:

フロリダ州立大学(アメリカ)、ロシア科学アカデミー ウラル支所(ロシア)、韓国教員大学校(韓国)、シリマン大学(フィリピン)、グリフィス大学(オーストラリア)、ブライジャヤ大学(インドネシア)、マレーシア工科大学(マレーシア)

○国際協力機関:

JICA(インドネシア)、West Java Environmental Protection Agency(インドネシア)

○民間企業他:

グラミン銀行(バングラデシュ)

学生の所属

国際協力研究科開発科学専攻(5名)、国際協力研究科教育文化専攻(1名)、教育学研究科文化教育開発専攻(2名)、教育学研究科科学文化教育学専攻(1名)、理学研究科地球惑星システム専攻(1名)、生物圏科学研究科環境循環系制御学専攻(1名)、先端物質科学研究科量子物質科学専攻(1名)

派遣学生の声

先端物質科学研究科量子物質科学専攻 新居大記さん

2014/9/21-12/1、グリフィス大学量子動力学センター(オーストラリア)でインターン

自分の経験値が何をやっても上がるボーナスタイムのようなものなので、現地に着いて、何か良いアイデアが得られたら、即行動に移すと思います。

G.ecbo事務局OB/OGスタッフからのメッセージ

これまでG.ecboプログラムを支え、創り上げてきた事務局スタッフからの温かいメッセージをご紹介します。G.ecboプログラムは各スタッフが持つ経験や知識・スキルを最大限に活かし、ここまで成長してきました。



学生を海外に送り出す業務を担当して約20年になります。

海外インターンシップに限らずですが、海外で学ぶ機会を得た皆さんには、恐ろしく大いに失敗をし、恥をかいて悔しい思いをする経験を積むことで、太く強く逞しくなりたいと思います。20代そこそこでスマートにまとまる必要はありません！

ハートを鍛えた皆さんが、将来社会で活躍されることを心より願っています。

(2004年11月～2015年3月 平田和子)



2006年、G.ecboの原型となった海外インターンシップは、国際協力研究科の1室で2名の事務局員と2つの受入機関から始まりました。約10年後の現在、学内では海外派遣プログラムが花盛り、現地の情報もネットなどでかなり入手できるようになりました。「海外」への敷居が低くなった分、「体験」の質を上げるためにはより高い目的意識と強い好奇心、そして敏感な感受性が必要となります。みなさんの奮闘を祈念します。

(2006年4月～2015年3月 中村聡)



G.ecboプログラムに初めて携わったのは、もう7年近く前になりました。参加学生一人一人に思い入れがあるので、今でも彼らの元気な顔が目に見えます。多くの学生さんのサポートをして、「母の気持ち」でその成果と修了を見守ってきました。修了生が何年後、何十年後に「行って良かった」「ターニングポイントだった」と思ってもらえたら成功でしょうか？今は別のプログラムに従事していますが、陰ながらいつも見守っています。

(2008年4月～2014年3月 佐々木知子)



わずか10ヶ月足らずの期間でしたが、G.ecboプログラムをとおして私も沢山のことを学び派遣学生の皆さんの学ぶ意欲から良い刺激を受ける事ができました。学生さんたちのサポートをする中で当プログラムの魅力をもっと知り、自分が学生だったら是非とも活用したいと思える充実した内容のプログラムです。今後も多くの学生さん達がそれぞれの研究分野の視野を広げるために、積極的に当プログラムに参加して下さることを願っています。

(2014年2月～2014年12月 林里奈)

事務局編集後記

G.ecboプログラムに携わりあつという間に4年が経過しました。2月には全学化5周年記念報告会を無事終了したところですが、その報告会を通して、当プログラムは学生をたくましく成長させることができる、魅力的なプログラムであることを再確認しました。一方、今年度は事務局の体制が変わり、試練の年となりそうです。これまで先生方やOB・OGスタッフによって築き上げられてきたノウハウを引き継ぎ、出来る限り学生に貴重な経験の場を提供していきたいと思えます。(事務局K)



ホームページもぜひご覧下さい。
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/gecbo/index.html>

10年後の自分を探そう
 世界と出会うインターンシップ



Explore your future through Global Internship.
 Join the G.ecbo program!!



広島大学
 G.ecboプログラム事務局
 電話 082(424)6950

Email: gecbo@hiroshima-u.ac.jp



活動予定 2015年度前期

Spring 2015 G.ecbo Schedule

...

- ◆4月9日/April 9: G.ecbo Day(募集説明会)/G.ecbo Application Guidance
- ◆4月21日/April 21: 応募締切/Application Due
- ◆5月初旬/Early May: 選考及び発表/Selection & Notification
- ◆5月中旬/Mid May: 事前研修開始/Commencement of Pre-internship Training